

# GSI Newsletter

G S I ニ ュ ー ス レ タ ー No. 25 2006/10

## Contents

地質情報展 2006 こうち  
—黒潮よせるふるさとの地質— 開催報告  
・地質情報展の新展開を目指して  
・地質情報展 2006 こうちに参加して  
・体験コーナー  
「遠くから飛んできた火山灰を洗ってみよう、顕微鏡で見てみよう」  
を振り返って

パキスタン地質調査所所長来所

CCOP メタデータ第4回ワークショップ  
参加報告

地質地盤情報協議会  
第3回意見交換会報告

第2回  
ユネスコジオパーク国際会議出席報告

全地連「技術e-フォーラム2006」名古屋  
における出展

統合地質図データベース (GeoMapDB)  
試験公開開始

新人紹介

スケジュール

編集後記

## 地質情報展 2006 こうち —黒潮よせるふるさとの地質— 開催報告

### 地質情報展の新展開を目指して

地質情報展 2006 こうち実行委員長 佃 栄吉 (地質調査総合センター代表)

地質調査総合センターは国として行うべき「地質の調査」に基づいて地質図や地震・火山などの研究成果を地質情報として整備し、それらを広く社会に普及することを目指しています。その普及活動の一環として、毎年各地で地質情報展を開催し、最もホットな研究成果や開催地に縁のある地質の紹介を行っています。

地質情報展は平成9年の第1回九州地質情報展「知っていますかあなたの大地—地質学が探る九州島—」を皮切りに、前身の工業技術院地質調査所時代に開始しました。今年度は、「地質情報展 2006 こうち」と題して、2006年9月15日から17日の3日間、高知市文化プラザ“かるぽーと”において開催しました。10年という節目を記念して、中西穂高 高知県副知事、相良祐輔 高知大学学長、竹村 謙 高知教育委員会高等学校課指導主事、永野正展 四国地質調査業協会理事長を来賓にお招きして、共同主催である日本地質学会の木村 学会長の出席を得て、初日にオープニングセレモニーを行いました (写真1)。

会場では、古くから研究が行われてきた、日本の地質研究の原点とも言える高知県を中心とした四国の地質に関して、研究者が自分自身の言葉で参加者に説明しました。また、体験コーナー (写真2) では、「自分だけの化石レプリカを作ろう!」、「いろんな石を触ってみよう!」、「砂を観察してみよう!」

写真1: オープニングセレモニーでのテープカットの様子。左から佃、永野正展 四国地質調査業協会理事長、中西穂高 高知県副知事、相良祐輔 高知大学学長、竹村 謙 高知教育委員会高等学校課指導主事、木村 学 日本地質学会会長。



などのキャッチフレーズのもと、実際に化石、岩石、砂などに触れて、地質現象を体験していただくことができました。さらに移動地質標本館では、参加者からの地質・鉱物・化石・岩石に関する質問に対して、研究者が直接お答えしました。

地質調査総合センターの総力をあげて取り組んだ今回の地質情報展には、小・中学生、家族づれや学生、一般の方々にご参加いただき、好評のうちに終了いたしました。マスコミ取材によるテレビ、新聞での報道を見て参加される方もたくさんおられ、3日間で1,000名近い入場者を得ました。短い期間ではありましたが、「地質情報展 2006 こうち」を通じて、参加者のみなさまに地質が私たちの生活にどのように関わっているかを理解し、考えていただくきっかけになったと思います。

今後ともこのような広報活動を継続し、さらに多くの方々に地質調査総合センターの研究成果や社会に役立つ地質情報を普及させたいと考えております。来年は北海道札幌市での開催を予定していますが、これからの10年を見通して普及活動の意義をより明確にして、地質情

報が担う社会貢献を明示していく所存です。そのために、開催地の研究所、博物館、大学、業界、行政機関などの連携を強化し、地元の特徴を生かした地質情報展の開催を目指して、準備を開始いたしました。今後とも、みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



写真2：体験コーナー「自分だけの化石レプリカを作ろう！」の様子。

## 地質情報展 2006 こうちに参加して 名和 一成（地質情報研究部門）

地質情報展“しずおか”に事務局として参加して以来、3年ぶりに地質情報展に参加した。今回の“こうち”では展示コーナーの一つ「四国地域の地球物理図」コーナーを担当した。準備・説明は地球物理情報研究グループ員があたり、大熊・中塚・駒澤・名和が事前のパネル素材を作成し、佐藤（秀）と名和で当日の展示説明を行った（写真）。

このコーナーでは、四国地域全体の重力異常図と磁気異常図を展示した。展示した図の解説がやや細かくなってしまったため、地質との対応関係を示せるよう同じ縮尺の地質図を重ね合わせたいと考えた。当日の説明の際には、トレーシングペーパーに印刷した後ラミネート加工した（これは事務局のアイデア！）、半透明のシームレス地質図を利用した。ただ、来場者よりも関係者のウケの方が良かった気がする。

コーナーに立ち寄ってくれた人たちは、説明を真剣に聞いてくれた。“地磁気”と聞いて「オーロラの研究とは関係あるのですか？」とか、「異常”って言っても何か悪いことを意味するわけではないのですよね？」という質問を受けた。このような、こちらが想定していなかった質問を受けるのは、直接話せるイベントの醍醐味であり、自分自身の勉強になる。

中には「地質”にはあまり興味はないのですが」と地球物理図目当てに来てくれた建設業関係の人がいたのは、コーナー担当者としてはうれしかった。ただし、空間ス

ケールや測定精度がその人には想定外だったようだが。

「世界が注目するホットな地域」とオープニングセレモニーで木村 学 日本地質学会会長が言っていた四国。しかしながら地質情報展で『ネイチャー』、『サイエンス』誌上を賑わわせている深部低周波微動・スロースリップイベントに触れた展示がなかったのは個人的には残念だった。他人のふんどしかもしれないが、最新の地球科学的成果として、地球物理図にこじつけてでも取り上げるべきだったように思う。

今後、地域によってはGSJ自前のデータで作成可能な比抵抗・弾性波構造図なども地球物理図コーナーで取り上げていい素材だと思っている。関係者の協力を期待したい。



写真：「四国地域の地球物理図」コーナーの様子。



## 体験コーナー

### 「遠くから飛んできた火山灰を洗ってみよう、顕微鏡で見てみよう」を振り返って

水野 清秀・植木 岳雪・山口 正秋（地質情報研究部門）

2006年9月15日～17日に行われた地質情報展2006こうちにおいて、火山灰を用いた体験コーナーをはじめ開設いたしました。火山灰を構成する鉱物にはきれいな形や色のものがありますので、顕微鏡で覗いてもらったら、みなさんの関心を高めることができるのではないかと考えました（写真）。鉱物粒子を取り出すふりかけや洗浄作業も、体験してもらおうにしました。

最初は、風化した火山灰を触って手が汚れるのをきらう子供たちが多いかもしれないと心配しましたが、実際に始めてみると、多くの子供たちが自分でもやりたいと集まってきて、人だかりができるほどになりました。洗ったサンプルを乾燥させるホットプレートは小さいものしか用意しておらず、みんなのサンプルを乾燥させるのに時間がかかってしまったことは反省材料です。火山灰粒子はスライドガラスの上にじかにのせて見てもらっていましたが、傾けるとこぼれてしまうので、顕微鏡の周りが砂だらけになってしまいました。そのうち「砂のサンプルを作ろう！」のコーナーで両面テープを用いていることに気がつき、それを使ってみると、粒が空間に静止しているような形で見られることがわかりました。試行錯誤の連続で、企画する私たちにも大変勉強になりました。

参加した人たちの多くは、火山ガラスや石英やざくろ石などの粒子がきれいだと感想を述べてくれました。また個々の鉱物のことをもっと勉強したいという親子づれの人も見受けられました。火山灰を教育の材料にしたいと貰っていく先生もいました。来年にはさらに改良を加えて、このコーナーの面白さを伝えていきたいと思います。



写真：体験コーナー「遠くから飛んできた火山灰を洗ってみよう、顕微鏡で見てみよう」の様子。

## パキスタン地質調査所所長来所

高田 亮（地質調査情報センター）

2006年9月30日～10月5日まで、パキスタン地質調査所（GSP）所長 Talib Hasan Mirza 氏と、GSP イスラマバード支所長 Allah Bakhsh Kausar 氏が来所された。2005年10月8日にパキスタン北東部を襲い数万人以上の犠牲者をだしたマグニチュード7.6の地震の情報交換が主な目的である。地震発生後、地質調査総合センター（GSJ）は、衛星画像解析により地震直後地滑りの発生を明らかにしWebに公開した。GSJは、2006年1月の現地でのGSP主催の国際会議に出席し、国際チームに加わり、全長65kmに渡る地震断層を確認した。3月には活動周期を明らかにするための断層の発掘調査を行った。また、JICAの復興事業にも協力した。

Mirza 所長は、10月3日午前、産総研つくばセンター所長室にて、小玉副理事長との会見を行い、GSJの地震災害調査の貢献に対して、感謝の意を表明された（写



写真：小玉副理事長（中央）と会見しているパキスタン地質調査所（GSP）Mirza 所長（右）と、GSP イスラマバード Kausar 支所長（左）。

真). 今年1月の国際会議に招聘され地震災害軽減のための提言を行った個研究コーディネータとの会見でも、Mirza 所長は、GSJの技術協力を高く評価し感謝を述べられた。また、活断層研究センターは、GSP 研究員を研修員として受け入れる予定である。10月3日午後には、活断層研究センター主催で所内研究発表会が開催され、Kausar 支所長が地震直後の地滑りの講演を、活断層研究センターの金田が、パキスタン地震の地震断層とテクトニックの位置づけに関する講演を行った。

GSP とは実は長いつきあいがある。ITIT プロジェ

クトやイスラマバード支局の地質科学研究所(ジオラボ)の設置から、長期派遣者をはじめとする地質調査総合センター(旧地質調査所)のGSPへの貢献は大きい。今回のMirza 所長来所では、地質情報研究部門の小笠原と高橋 浩の協力はありがたかった。Mirza 所長とKausar 支所長は、活断層研究センター、地質リモートセンシング研究グループ、統合地質情報研究グループ、地質情報整備室、地質標本館を訪問し、研究から一般普及までの熱心な議論を行い、今後のプロジェクトの可能性を模索し、実りある成果があったと思う。

## CCOP メタデータ第4回ワークショップ参加報告

渡辺 和明(地質調査情報センター)・村上 裕(地質情報研究部門)

2006年9月5日~7日に、中国の広州市において中国地質調査局(CGS)、東・東南アジア地球科学計画調整委員会(CCOP)及び産総研が共催する「Seminar on Geoinformation Technology and 4th Workshop of CCOP Metadata Working Group」が開催されました。前半のセミナーでは、CGSにおいて開発を進めている地質図のマッピングシステムや解析ソフトウェアなどが、Geoinformation Technologyに関する強い意気込みのもとで紹介されました。後半のワークショップでは、まず各国の近年の地質図作成状況やそれらに関する技術情報についてのカントリーレポートの発表がありました(写真)。

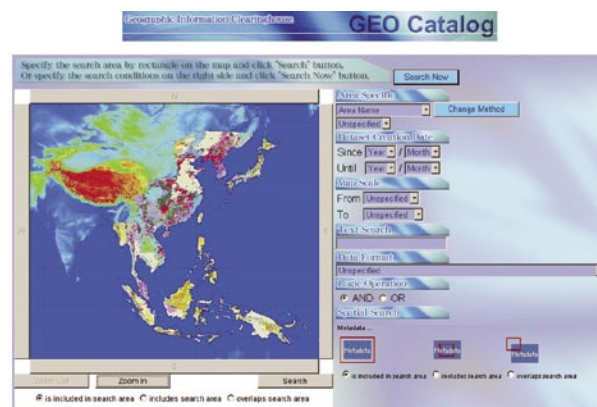
CCOP メタデータと呼ばれるプロジェクトは、2002年から始まり、CCOP加盟諸国のカンボジア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム及び日本などでワーキンググループを構成しています。各国の出版済みの地質図についてメタデータ項目のフォーマットを作成し、各国がメタデータの提供目標数を掲げました。以来各国からメタデータを提供してもらい、産総研のRIO-DBの「地質情報総合メタデータ」という検索システム上に集中し、Web上でメタデータを検索できるシステム(図)を構築しています。9月現在4,115件のメタデータが検索でき、一部サムネイル画像も見ることができます。

第4回ワークショップでは、来年3月までに、なるべく多くの地質図を登録して、第一期を終了することになりました。また、このプロジェクトを地質図だけでなく、資源図や災害図などの地球科学図や、データベースなどに拡大した第二期に発展すべきであるとの議論がありました。CGSは、既に正式に発表されたメタデータの世界標準であるISO19115に基づいたメタデータを作

成しており、第二期ではCCOPでも同様に第一期のものより拡大すべきであると提案が行われました。地質調査情報センターでは引き続きこのプロジェクトの発展も含め、国内外の地質情報のメタデータの整備のために努力していく方針です。



写真：会議の様子。



図：RIO-DBの「地質情報総合メタデータ」トップ画面。  
<http://www.aist.go.jp/RIOdb/GeoMetaData/ASIA/>

## 地質地盤情報協議会 第3回意見交換会報告

齋藤 眞 (地質調査情報センター)

ボーリング情報を社会共有の資産として、データベース化を進めることを目的とした地質地盤情報協議会第3回意見交換会が、2006年9月11日の午後、丸の内サイト会議室で開催されました(写真)。出席者は32名で、うち22名が産総研外の出席者(政府、自治体、企業)でした。本協議会は産総研コンソーシアムとして、企業等の参加者から会費を集めて行われているものです。

栗本史雄協議会会長(地質調査情報センター長)の趣旨説明のあと、

「ボーリングデータベースに対する地盤工学会の最近の取り組み」

基礎地盤コンサルタンツ(株) 藤堂博明氏

「千葉県地質情報インフォメーションバンクの経緯と現状について」

千葉県環境研究センター地質環境研究室長 楠田 隆氏

「地質調査情報センターのコアライブラリーについて」

事務局 角井朝昭

「関西圏地盤情報ネットワークに至る経緯と今後」

(財)地域地盤環境研究所 山本浩司氏

の発表が行われました。

これらの発表で、地盤工学会等を中心に各地でボーリングデータのデータベース化が行われているものの地域によって温度差がかなりあること、公的機関のボーリングデータは比較的集めやすいものの、民間のデータを集めることは、かなり難しいことが見てきたようです。そして、ボーリングデータの収集には、個人情報、著作権、その他の権利などの問題が出てくることから、社会

に残すべき財産と考え、法制化しなければデータは集められない、などの意見が出されました。

総合討論では、今後の法制化を見据えた方針について議論され、強制的にデータを提供させる強制法規の部分と任意提出の部分が並立するのが現実的という事務局案が地質調査情報センターから出され、今後検討していくこととなりました。また、データベースは後のデータ登録等のメンテナンスが重要で、その予算確保についても検討すべきとの意見が出されました。

次回は、2006年11月13日に今回と同じ丸の内サイトで、法律の専門家の講演を交えて行われる予定です。興味のある方はぜひ本協議会にご参加ください。

<http://www.gsj.jp/Sgk/index.html>



写真：質問に答える千葉県環境研究センター楠田氏(中央奥)。

## 第2回ユネスコジオパーク国際会議出席報告

渡辺 真人(地質情報研究部門)・宝田 晋治(地質調査情報センター)

2006年9月18日から21日まで、第2回ユネスコジオパーク国際会議が英国北アイルランドのベルファストで行われ、40カ国から約300人が参加しました。日本からは、地質調査総合センター(GSJ)の佃・渡辺・宝田を含む4人が参加しました。

ジオパークというのは、地質学的に重要な露頭や場所(地質遺産といえます)を含む地域において、その地質遺産を研究・教育に活用し、遺跡や文化遺産とあわせて観光などに活用し、その地域の持続的発展を目指す活動です。元々はヨーロッパで始まり、現在ではユネスコが

推進しており、2004年からは一定の基準を満たすジオパークがユネスコの世界ジオパークネットワークの一員として認定されることとなりました。今回の会議で12のジオパークが新たに世界ジオパークネットワークのメンバーとして認定され、ユネスコ認定のジオパークは50箇所になりました(ヨーロッパ30箇所、中国18箇所、イラン・ブラジル各1箇所)。日本では地質学会の下にジオパーク推進委員会があり、日本におけるジオパークの設立へ向けて関連省庁・学会、地方自治体などへ働きかけを行っています。また、GUPI(地質情報整備・活



用機構)がジオパークに関する講演会とシンポジウムをそれぞれ今年の4月と8月に行い、ジオパークという活動が日本でも徐々に認知されつつあります。

ジオパークの目的は、地質遺産を保護することだけでなく、それを観光資源として地域振興に活かすことにより、地元の人と訪問者に地域の地質や地形の成り立ち、およびそれらが人間の生活とどう関わってきたかを理解してもらい、最終的には地球科学の成果を今よりもっと社会の中で役立ててもらうことです。これを実現するには、ジオパークが本来の目的から遊離せずに、採算の取れる形で長く継続することが重要です。このような視点で各国でのジオパークの活動を報告して情報交換するとともに、今後の方向を議論するのが今回の会議の目的でした。

GSJから参加した3人は、日本のジオパーク推進活動(佃)、ジオパーク候補としての有珠と雲仙(宝田)、日本のジオパーク候補(渡辺)について発表しました(写真)。今のところ安定大陸にしかジオパークはなく、変動帯に位置するために地質災害という形で地球科学と社会との関わりがある、日本におけるジオパークの活動には多くの期待と関心が寄せられました。

会議では、持続的開発とは何か、といった理念的な議論に加え、どのように現地のガイドを養成するか、パンフレットをどう魅力的にするか、など具体的なジオパークの運営に関しても様々な議論がなされました。また、各地のジオパークの立ち上げの経緯や運営の工夫に関する発表を聞くとともに、それらの活動を推進している人たちと話をすることができ、日本におけるジオパークの推進にとって有意義な情報収集をすることができました。

各国のジオパークの推進と運営は大まかに次のようになっているようです。英国を中心とする西欧では、過去からの自然保護の活動の蓄積の結果、地質遺産の保護と



写真：発表中の佃コーディネーター。

いうことに社会の理解があり、その状況下で草の根的な地元の活動によりジオパークが推進・維持されています。北欧・中欧などその周辺地域では、国立公園を所管する省庁や、国立地質調査機関など国の協力のもとで地方自治体などがジオパークを推進しています。中国の例は特異で、国を挙げてのバックアップによりジオパーク(地質公園と呼ばれています)が公的資金で整備され、一種のテーマパークとしてジオパークに多数の観光客が遊びに来ています。その賑わいと経済的な成功が広く知られたため、現在では民間資金がジオパークの開発に投資されてさらに新たなジオパークの開発が加速しています。

今回ブラジルが新たにネットワークの一員に認定され、マレーシア、ナミビア、モロッコからも申請が出ており、オーストラリア、カナダやベネズエラからも会議に参加者が来ています。このことはジオパークがヨーロッパ・中国中心の活動から真のグローバルな活動になりつつあることを示しています。日本でも、今後地道な広報・普及活動を続けていき、多くのジオパークが設立されて、地球科学が多くの人にもっと身近なものになることを願っています。

## 全地連「技術 e - フォーラム 2006」名古屋における出展

佐藤 努 (地質情報研究部門\*)

2006年9月21～22日に愛知県名古屋市のメルパルク NAGOYAにて、第17回全地連「技術 e-フォーラム 2006」名古屋が開催されました。このフォーラムは、社団法人全国地質調査業協会連合会(全地連)が主催し、平成元年より全国各地区で開催しているものです。GSJは毎年招待展示を行っており、今年は地質情報研究部門から脇田及び井川、東北センターより高橋、北海道センターより中川、そして地質調査情報センターより筆者\*

が参加して出展を行いました。

今年の出展は、主に4つの項目についてポスターおよびインターネットを用いた展示を行いました。具体的には、今年の3月に公開を開始した20万分の1シームレス地質図および地質情報インデックス検索システム、9月より試験公開を開始した統合地質図データベース、名古屋周辺の5万分の1シームレス地質図です。いずれも、インターネットを用いてどこでも地質情報を検

索・閲覧できるもので、公開もしくは作成されたばかりであったため、地質調査業に携わる方々の興味を引いていたようです。実際にパソコンを操作して、地質図等(特に20万分の1シームレス地質図)を閲覧できたことも好評で、閲覧された方の多くは、自分が調査を経験したことのある地域の地質図を表示しながら使い勝手を吟味されていました(写真)。

本フォーラムでは、「減災害への取り組み」についてのシンポジウムや、その他様々な講演も開催されました。講演のタイトルを見ると、「地質事象百選の選考状況について」、「地質リスクに関するWG活動報告」、「Web-GISの普及活動報告」、「土质地質図のJIS化…(後略)」など、GSJの活動と深く関連する内容が多かったのが印象的でした。

技術e-フォーラムにおける過去の出展の様子については、次のWebページをご参照下さい。

<http://www.gsj.jp/Sgk>

\*フォーラム開催時は、地質調査情報センター所属。



写真：インターネットで地質図を閲覧する参加者。

## 統合地質図データベース (GeoMapDB) 試験公開開始

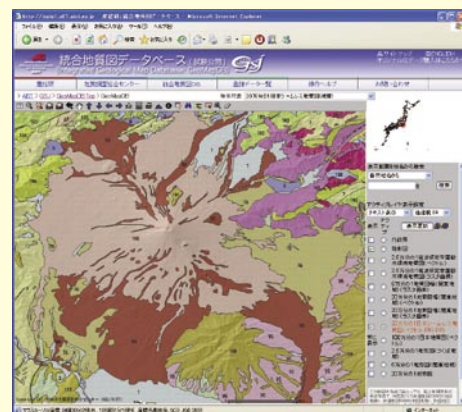
宝田 晋治 (地質調査情報センター)

統合地質図データベース (GeoMapDB) は、産総研地質調査総合センターが出版公開している各種の地質図等を、WebGIS 技術により、自在に閲覧・検索・活用できるようにしたものです。2006年9月29日より試験公開を開始しました。より多くの方々に地質図に慣れ親しんでいただき、利用していただくためのデータベースです。現時点では、100万分の1日本地質図(全国:ベクトル版)、20万分の1日本シームレス地質図(全国:ベクトル版)、20万分の1地質図幅(全国:ラスター画像版、関東地域:ベクトル版)、5万分の1地質図幅(関東地域:ラスター画像版)、2.5万分の1筑波研究学園都市環境地質図(つくば地域:ラスター画像版、ベクトル版)を公開しています。今後、掲載範囲を全国に広げるとともに、各種の100万分の1地質図、200万分の1地質図、特殊地質図等も掲載予定です。WebGIS機能による各種の検索機能を用意しましたので、地名検索やベクトル版地質図の検索など大変便利にお使いいただけます。さらに、プラグインをインストールすることにより、3D表示を行うことも可能です。操作ヘルプを一度ご覧になってからお使いください。また、他のWebGISサーバ上のデータと互いに重ね合わせて表示するWMS機能を今後整備する予定です。この機能により、各種

の地球物理データ、衛星画像や地すべり分布データベースと統合地質図データベース上の各種地質図を重ね合わせてより高度に利用することが可能となる見込みです。

統合地質図データベースは、試験公開を開始したばかりであり、今後より多くの方に利用していただき、ご意見をいただきながら、より使いやすい地質図データベースとして発展させていきたいと考えています。お気づきの点やご要望は、ぜひご連絡いただければ幸いです。

<http://iggis1.muse.aist.go.jp>



20万分の1日本シームレス地質図(ベクトル版)を陰影図と重ねて表示。(富士山周辺地域)

## 新人紹介

### 井上 卓彦

(いのうえ たかひこ, 地質情報研究部門)

2006年4月1日付で地質情報研究部門・海洋地質研究グループに研究テーマ型任期付研究員として採用されました井上卓彦と申します。3月まで愛媛大学後期博士課程の学生として、海岸侵食についての研究を進め、沿岸海域における砂質砕屑物の堆積作用や土砂収支について堆積物分析や音波探査を用いて研究してまいりました。

今後はより大きな系である日本周辺海域を研究対象とし、音波探査を用いた海底地質図の作成に加え、層序学を基本として、日本周辺海域の発達史、断層や堆積盆などの構造地質学の要素や海底堆積物の収支などの解釈を加えた研究を行っていきたく考えています。まだ研究者として出発したばかりで、研究を進めるにあたり、様々な研究者の方々の協力や議論が必要となると思います。今後ともご指導・ご鞭撻よろしくお願いたします。



## スケジュール

10月3日～11月12日	地質標本館特別展 「人類と社会の未来をつなぐ地質時代 -日本の第四紀研究50年-」 (つくば市, <a href="http://www.gsj.jp/Muse/eve_care/2006/2006yonki/yonki.html">http://www.gsj.jp/Muse/eve_care/2006/2006yonki/yonki.html</a> )
10月29～11月5日	CCOP 第43回年次総会および第48回管理理事会 (韓国・大田, <a href="http://www.ccop.or.th/news_detail.asp?ID=94">http://www.ccop.or.th/news_detail.asp?ID=94</a> )
10月31日～11月2日	日本地震学会2006年秋季大会 (名古屋市, <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/ssj/">http://www.soc.nii.ac.jp/ssj/</a> )
11月4～7日	第120回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会 (相模原市, <a href="http://www.stp.isas.jaxa.jp/STP/sgepss/index.html">http://www.stp.isas.jaxa.jp/STP/sgepss/index.html</a> )
11月9～11日	日本応用地質学会平成18年度研究発表会 (熊本市, <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/jseg/r_new/committee/gyouji_box/2006/H18kenpatsu/H18kenpatsu_main.html">http://www.soc.nii.ac.jp/jseg/r_new/committee/gyouji_box/2006/H18kenpatsu/H18kenpatsu_main.html</a> )
11月11日	第17回自分で作ろう!!化石レプリカ(地質標本館) (つくば市, <a href="http://www.gsj.jp/Muse/eve_care/eve_care.html">http://www.gsj.jp/Muse/eve_care/eve_care.html</a> )
11月13日	地質地盤情報協議会第4回意見交換会 (丸の内, <a href="http://www.gsj.jp/Sgk/index.html">http://www.gsj.jp/Sgk/index.html</a> )
11月14日	地質調査総合センター第6回シンポジウム 「地質情報の社会貢献を考える」 (秋葉原, <a href="http://www.gsj.jp/Event/061114sympo/index.html">http://www.gsj.jp/Event/061114sympo/index.html</a> )
11月20～22日	日本地熱学会2006年学術講演会 (福島県天栄村, <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/grsj/ten-ei/index.html">http://www.soc.nii.ac.jp/grsj/ten-ei/index.html</a> )
11月24日	第5回地圏資源環境研究部門成果報告会 (青海, 産総研臨海副都心センター, <a href="http://unit.aist.go.jp/georesenv/06houkokukai.html">http://unit.aist.go.jp/georesenv/06houkokukai.html</a> )
12月15日	2006年度日本情報地質学会シンポジウム 「Web-GISによる公開情報活用とその促進環境」 (秋葉原, <a href="http://www.jsgi.org/symposium2006.html">http://www.jsgi.org/symposium2006.html</a> )
2007年 2月1～2日	第11回「震災対策技術展/自然災害対策技術展」横浜 (横浜, <a href="http://www.exhibitiontech.com/etec/">http://www.exhibitiontech.com/etec/</a> )

このニュースレターは、  
地質調査総合センターのホームページで  
バックナンバーを含めご覧になれます。

<http://www.gsj.jp/gsjnl/index.html>

## 編集後記

山本 茂男  
(地質調査情報センター)

本号は10周年を迎えた地質情報展の報告を中心に、GSP 所長来所、国内外の会議参加報告等を紹介しましたが、いかがだったでしょうか。

地質情報展については、来場者アンケートでは「いろいろな体験ができて楽しかった」「説明が丁寧で分かり易かった」等の感想を書かれた方が非常に多く、「また開催してほしい」と十分満足していただけたことがうかがえます。また、マスコミにも多数取り上げられるなど、開催目的が十分達せられたイベントだったように思います(もちろん反省点もありますが)。さらに地質情報展事務局では、この先10年を見通し、新展開を目指して活動を開始したとのこと。

さて、GSJ ニュースレターは本号で3年目に突入しました。こちらは創刊時の目的に対して、どの程度まで達成できているのでしょうか。皆様の評価はいかがのでしょうか? 発行することだけが目的となっていないかと自問しつつも、とりあえず本号を皆様にお届けできたことでほっとしています。今後ともよろしくお願いたします。

GSJ Newsletter No.25 2006 / 10

発行日: 2006年 10月27日

発行: 独立行政法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター

編集: 独立行政法人 産業技術総合研究所  
地質調査情報センター

栗本 史雄(編集長)  
山本 茂男(編集担当)

志摩 あかね(デザイン・レイアウト)

〒305-8567

茨城県つくば市東1-1-1 中央第7

TEL: 029 - 861 - 3687

Fax: 029 - 861 - 3672

ホームページ: <http://www.gsj.jp/>